

令和元年度栃木県養護教育研修会開催（478名参加）

期 日 令和元年11月8日（金）
会 場 宇都宮市文化会館大ホール



1 会長あいさつ 栃木県養護教育研究会 田代 哲郎 会長

2 研究発表



「今日的な健康課題に対応する日光市養護部会の取組
～多様な性(LGBT等)への理解の輪を広げるために～」
発表者 日光市立落合中学校 木村 晴美 先生
日光市立大桑小学校 沼尾 佳奈 先生

3 指導・助言 栃木県総合教育センター指導主事 永岡 裕子 先生

4 内地留学報告

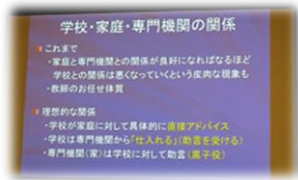
「学校における児童虐待の対応と予防
～「チームとしての学校」で求められる養護教諭の役割～」
さくら市立南小学校 野畑 恵里 先生



5 講演

「不登校児童生徒の支援 ～チームの一員としての養護教諭の対応～」
講師 FR教育臨床研究所所長 花輪 敏男 先生

- 学校は、インターフェイス（いちばん話しやすい人）を決め、その人が動きやすいようにチームがサポートしていく。
- 不登校は、例えば、ガソリンの少ない自動車。
解決のために必要なこと
→日常生活の中でガソリン（心的エネルギー）を入れる。
→上手に動かすための専門的な技術。
→道路（学校とのパイプ）が繋がっていることが大切。



- 専門機関は黒子役となり、学校に助言。
学校は、その助言を受け家庭に対しアドバイスをする。
- 窓口になるのは養護教諭が多い。
保健室が、児童生徒や保護者が話しやすい場所であるように。
- 助言を受け入れ、生徒・先生・保護者に伝え、よい関係を作る。
- まずは、保護者の気持ちに寄り添って、関係を作る。関係ができてからアドバイス。
上から目線ではなく「一緒にがんばりましょう」という同じ目線で。
- 不登校は非常に微妙な問題。「かかわる」ことによって問題解決。かかわり方を研修すべき。
- 1に情熱、2に誠意、3・4がなくて5に技術

今回の当番地区は足利地区でした。御協力を頂き、ありがとうございました。